

台湾布袋戲と学校教育 2018

渡 邊 幸 彦

はじめに

筆者は、台湾の指遣い人形劇「布袋戲」について、この十年余り継続して研究調査の結果を発表してきた。2014年の「台湾布袋戲と学校教育」（『同朋文化』第九号、2014/3発行）においては、特に深刻となっている人材育成の問題に焦点を当て、「布袋戲」劇団と学校教育との結びつきの歴史と課題について論じたのだが、それからさらに五年ほど経過し、「布袋戲」の後継者育成環境が好転しているとは決して言えない状況にある。

「布袋戲」は通常その上演スタイルによって「傳統」「金光」「電視（霹靂）」といった分類がされるが、現在上演活動が確認できる（プロの）劇団においては、手のひら型の小さな人形と小さな舞台で演じる「傳統布袋戲」と、大型の人形と大型の舞台を用いて派手な演出で魅せる「金光」及びその発展形である「電視布袋戲」との比率は、劇団数で見るとほぼ1：3であり、圧倒的に後者の方に分がある。（筆者前稿『『西遊記』『三国演義』『白蛇伝』布袋戲演目小考』参照/『同朋文化』第十三号、2018/3発行^{註1}）1970年代に劇団数が400を越えた頃と比べるとその規模は3～4分の1程度に縮小しているとはいえ、現代においても確実に「布袋戲」文化は社会に根づいており、台湾を代表する文化遺産として世界に発信すべきコンテンツであることは疑いがなく、ただし若者を中心として支持を集めているのは、専ら「金光」「電視」系統の活動なのである。

戦前（日本統治下）の時代から1960～70年代頃までは、人材育成は各劇団に委ねられており、父子を基軸とした徒弟制度が基本であったといっ
てよい。北部の李天禄（故人）、許王、中南部の黄海岱（故人）といった
名人を中心に、弟子たちは分家して新たな劇団を増やしつつ、グループと
して技術の伝統を維持していくという体制が保持されていた。その後、社
会の多様化にしたがってその体制を維持することが難しくなったことに対
応するために、いち早く学校教育との協力関係を築こうとしたのが李天禄
の「亦宛然掌中劇團」であったのだが、そのあたりのいきさつについては、
前稿「台湾布袋戲と学校教育」（『同朋文化』第九号）ですでに述べた。^{注9}

現在では、学校のクラブ活動で「布袋戲」に馴染んだことがきっかけと
なってプロの道へ進む者が現れるなど、学校教育が「布袋戲」の人材育成
に影響力を持つようになってきているのはまちがいない。ただし、筆者は
すでにいくつかの小学校と大学のクラブ活動等の取材を行ってきたものの、
全体としてどれほどの広がりを持っているのかはまだつかみきれていない。

本稿では、学校教育における「布袋戲」活動の実態調査を行うための予
備資料をまとめることに主眼を置くこととする。

1 台湾の小中高の状況

1-1 地域別特色

台湾の公教育の基礎は日本統治下で整備され、1941年に制定された
「國民小学」「國民中学」の名称が現在でも用いられている。学校のシステ
ムも日本のそれと近く、成課外でクラブ活動を設けている点なども日本と
共通していると言ってよい。「布袋戲」のアマチュアの活動については、
ほぼ学校でのクラブ活動に集約されると言うてよいが、まずは小中高の実
態を地域ごとに整理してみる。

教育部統計処（「教育統計查詢網」から検索）による最新（中華民國曆）
107年度（2017年9月～18年8月）の学校データを、地域別に表にして
みると以下のようなになる。

台湾布袋戲と学校教育 2018

学 校 数		(国小) 小学校	(国中、附中) 中学	(高中) 高校
北 部	新北市	219 (内私立 5)	103 (内私立 19)	62 (内私立 31)
	基隆市	42 (" 1)	17 (" 2)	12 (" 4)
	台北市	151 (" 0)	88 (" 15)	67 (" 32)
	桃園市	190 (" 4)	69 (" 10)	34 (" 16)
	新竹県	86 (" 2)	36 (" 5)	10 (" 5)
	新竹市	34 (" 1)	19 (" 4)	12 (" 4)
	小計	722	332	197
中 部	苗栗県	114 (" 0)	38 (" 3)	19 (" 8)
	台中市	236 (" 1)	99 (" 16)	51 (" 24)
	彰化県	175 (" 0)	44 (" 3)	24 (" 5)
	南投県	139 (" 2)	36 (" 3)	15 (" 5)
	雲林県	155 (" 2)	41 (" 7)	21 (" 10)
	嘉義県	124 (" 0)	28 (" 2)	10 (" 5)
	嘉義市	20 (" 0)	12 (" 4)	13 (" 7)
	小計	963	298	153
東 部	宜蘭県	76 (" 0)	28 (" 2)	12 (" 2)
	花蓮県	103 (" 1)	26 (" 2)	13 (" 4)
	台東県	88 (" 0)	25 (" 2)	10 (" 3)
	小計	257	79	35
南 部	台南市	211 (" 0)	77 (" 14)	47 (" 21)
	高雄市	242 (" 0)	102 (" 10)	54 (" 20)
	屏東県	168 (" 1)	43 (" 4)	19 (" 6)
	澎湖県	37 (" 0)	0	2 (" 0)
	小計	658	222	122
他	金門県	19 (" 0)	5 (" 0)	2 (" 0)
	連江県	7 (" 0)	5 (" 0)	1 (" 0)
	小計	26	10	3
計	2,636	953 (含/附中 215)	510	

表1 台湾学校数 注3

台湾でも日本同様に少子化による学校の統廃合は進んでいるが、それでも基本は地域ごとの格差が生まれないように小学校は配分されているのわかる注40。北部、中部、南部を比較してみると、小学校段階では全体の学

校数に占めるそれぞれの地域の割合が、北 27%、中 37%、南 25%であるのに対し、中学校で北 35、中 31、南 24、高校で北 37、中 30、南 24 と、上級学校に進む度に北部へ重点が移っていく実態がうかがえる。(2-1で述べるように、大学ではその 45%が北部に集中している。)

台湾における「布袋戲」のクラブ活動を考えるに当たって、特に小中の学校の地域配分と、直轄市(台北、新北、桃園、台中、台南、高雄)エリアにおいて半数を占める私立高校の存在にも注目してみたい。

1-2 コンテスト出場校の傾向

台湾では、2005 年より教育部の主導で小中高生の人形劇コンテスト「全國學生創意偶戲比賽」が全国規模で開催されている。その概要に関しては「台湾布袋戲と学校教育」(『同朋文化』第九号)^{註5}ですすでに紹介しているが、再度その意義と傾向について述べてみたい。

コンテストは、2005 年から 4 年間の初期段階では、人形劇の形式により、大きく I 「手套偶戲」(手袋型の片手遣い人形、いわゆるハンド/グローブパペット)と II 「光影偶戲」(幕を設置して投影する、いわゆる影絵)、III 「総合偶戲」(その他。複数の形式を兼ねるものを含む。)と三分類のみであったが、2009 年よりは伝統的な人形劇を分離独立させ、IV 「布袋戲」(掌型)、V 「傀儡戲」(糸操り)、VI 「皮(紙)影戲」(影絵)の三分類を加えた。さらには 2014 年よりコンテスト名を「創意戲劇比賽」と改め、VII 「舞台劇」の分類を増やし、舞台を大きく使った表演形式(人間による芝居を含む)なら何でも参加できる形へと変革を図ってきている。

参加校数でみると、2017 年(民国暦 106 年)においては、「現代偶戲」(I~III)が 63 校、「傳統偶戲」(IV~VI)が 52 校、「舞台劇」(VII)が 68 校とほぼ均等になっているのがわかる。

以下、「全國學生創意戲劇比賽」のサイトに公開されている「94 至 106 學年度全國學生創意戲劇比賽決賽團隊統計表」を改変整理し、最近 10 年間のコンテストの参加校数の一覧を示すこととする。

		民国曆	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	~97	
I	現代偶戲類 手套偶戲組	国小	2 0 1 9 年 1 月 時 点 で 未 確 定	5	9	8	9	13	18	17	20	21	25	
		国中		4	4	5	10	6	7	6	5	3	8	
		高中職		3	4	5	5	8	4	4	2	3	5	
II	現代偶戲類 光影偶戲組	国小		10	11	10	12	6	8	8	9	11	19	
		国中		7	6	3	10	5	3	2	0	0	6	
		高中職		4	3	4	3	2	3	2	3	1	0	
III	現代偶戲類 綜合偶戲組	国小		12	11	12	19	16	18	21	23	19	20	
		国中		9	7	9	11	12	12	10	7	7	9	
		高中職		9	8	10	9	12	9	10	8	11	8	
IV	伝統偶戲類 布袋戲組	国小		20	18	17	16	18	18	18	12	14		
		国中		7	8	8	9	8	8	2	3	4		
		高中職		2	1	1	1	1	1	1	4	1		
V	伝統偶戲類 傀儡戲組	国小		3	4	2	4	2	1	2	2	0		
		国中	3	4	4	2	2	1	0	0	0			
		高中職	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
VI	伝統偶戲類 皮影戲組	国小	10	11	9	10	13	7	7	9	6			
		国中	7	7	8	8	5	5	3	3	3			
		高中職	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
VII	舞台劇	国小	25	28	30	15								
		国中	23	24	26									
		高中職	20	22	19									
計		国小	85	92	88	70	68	70	73	75	71	64		
		国中	60	60	63	50	38	36	23	18	17	23		
		高中職	38	38	39	33	23	17	17	17	17	13		
総計		183	190	190	153	129	123	113	110	105	100			

表2 コンテスト参加校数(※97~107は中華民國曆。2008~2018にあたる。)注6

初年度が81校だった参加校数は、2018年度にはその倍以上の183校まで拡大したが、それは2014年度に「舞台劇」分野を加えた効果に他ならず、人形劇の分野だけ見ればここ五年は横ばいかむしろ減少傾向にある。とりわけ「伝統偶戲」部門の高校生の参加はほぼゼロに等しい。そもそもパペット型の片手で操るタイプは、世界的に見ても、影絵タイプと並んでもっとも初心者に適した人形劇であるといえる。「伝統布袋戲」が一見取っ

つきやすく見えることが、小学生たちに受け入れられている要因のひとつであるのは疑いが無い。現に「現代偶戯」(Ⅰ～Ⅲ)はむしろ減少傾向にあるのに比して、「布袋戯」(Ⅳ)が安定して25校以上の参加を得ているのはやはり注目に値するが、高校生以上になるとこの10年平均1校しか参加がないように、高学年まで継続して続けることができないことが問題なのである。

つぎに「布袋戯」に関して、参加校の傾向を見てみることにする。次の表は、前参加校の年度別参加状況である。こちら「全國學生創意戲劇比賽」のサイトに公開されている年度別参加団体データを元に筆者が整理したものである^{註70}。

	地区	(国民小学)	国公私	107	106	105	104	103	102	101	100	099	098	~97
北	基隆市	信義区 中興國小	公	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	新北市	三重区 光興國小	公	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
	新北市	三芝区 三芝國小	公		○		○		○	○			○	○
	新北市	板橋区 中山國小	公	○	○	○	○	○						
	新北市	板橋区 大觀國小	公									○		○
	新北市	三峡区 三峡國小	公	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	新北市	新莊区 新莊國小	公						○	○	○		○	
	台北市	士林区 陽明山國小	公							○	○			
	台北市	士林区 平等國小	公									○		
	台北市	北投区 立農國小	公	○	○									
	台北市	北投区 清江國小	公									○		○
	台北市	士林区 平等國小	公		○									
	台北市	文山区 興隆國小	公	○		○	○		○	○	○		○	
	台北市	中正区 双溪國小	公			○								
	台北市	大同区 双連國小	公							○	○		○	
	台北市	大同区 蓬萊國小	公									○		○
	桃園市	觀音区 富林國小	公	○	○									
	桃園市	龜山区 文欣國小	公		○									○
	桃園市	桃園区 東門國小	公						○					
	新竹県	関西鎮 東安國小	公	○	○	○	○	○	○	○				

中	新竹県	横山郷 大肚国小	公											○	○	
	苗栗県	通霄鎮 圳頭国小	公	○	○	○	○	○	○	○	○					○
	台中市	西屯区 何厝国小	公	○	○	○	○		○							
	南投県	鹿谷郷 秀峰国小	公												○	
	嘉義市	嘉義市 志航国小	公	○	○	○	○	○	○	○	○					○
	嘉義県	溪口郷 美林国小	公												○	
	雲林県	大坪郷 旧庄国小	公	○	○			○	○							
	雲林県	斗六市 石榴国小	公			○	○							○		
	雲林県	西螺鎮 広興国小	公								○					
東	宜蘭県	五結郷 孝威国小	公	○	○	○			○	○	○				○	
南	台南市	南区 永華国小	公		○	○		○	○	○	○					
	台南市	北門区 文山国小	公	○												
	台南市	南化区 西埔国小	公			○	○	○								
	台南市	後壁郷 樹人国小	公												○	
	高雄市	鳳山区 正義国小	公	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	高雄市	橋頭区 興糖国小	公	○	○	○	○		○	○	○					○
	高雄市	小港区 港和国小	公	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	屏東県	里港郷 載興国小	公		○		○									
	屏東県	長治郷 長興国小	公			○										
屏東県	内埔郷 内埔国小	公					○	○	○	○	○	○	○			
		(国民中学)		107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	~97		
北	新北市	三芝区 三芝国中	公	○	○	○	○	○	○	○					○	○
	新竹市	香山区 虎林国中	公	○	○	○	○	○	○	○						
	台北市	士林区 格致国中	公										○	○	○	
	桃園県	大溪鎮 仁和国中	公							○	○					
	新竹市	香山区 内湖国中	公										○	○		
	新竹県	竹北市 鳳岡国中	公													○
中	彰化県	福興郷 鹿港国中	公	○	○	○	○	○								
	雲林県	虎尾鎮 東仁国中	公		○		○		○							
	雲林県	古坑郷 古坑国中	公					○		○						
	雲林県	西螺鎮 西螺国中	公	○												
	雲林県	斗南鎮 東明国中	公			○										
東	宜蘭県	蘇澳鎮 蘇澳国中	公	○												
	宜蘭県	頭城鎮 頭城国中	公				○	○	○							
南	台南市	安南区 安順国中	公	○	○	○										

	台南市	中西区 建興國中	公				○											
	台南市	安南区 和順國中	公				○	○	○	○								
	台南市	永康区 永康國中	公					○										
	高雄市	新興区 新興高中附設國中	公	○	○	○		○	○	○			○	○	○			
	高雄市	左營区 立德國中	公	○	○	○	○	○	○	○								
	高雄市	小港区 小港國中	公									○						
	屏東県	嵌頂郷 南榮國中	私			○												
		(高職専)		107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	~97				
北	台北市	大同区 稻江高商	私									○						
中	台中市	西屯区 台中中華高中	国									○						
	嘉義市	東呉高工家職学校	私		○													
南	台南市	新豊高中	国							○								
	高雄市	小港区 小港高中	公									○						
	高雄市	前鎮区 中正高工職	公	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			

表3 コンテスト参加校推移（※97～107は中華民国暦。同上）

参加校総数は67（小40、中21、高職6）で、過去10年間で5回以上参加する常連校は22（小16、中5、高職1）を数える。その延べ数を地域ごとに見てみると、小学校では北部21/中部8/(東部1)/南部10と圧倒的に北部の参加数が多いが、中学では北6/中5/(東2)/南8と、北中南がほぼ均等になっている。ただ、常連校という基準で考えると、小学校に関しては北7/中3/(東1)/南5と、北と南に倍ほどの差は無いことがわかる。中学においては、常連校は北2/中1/(東0)/南2、高校に至っては南の1校のみであり、ほぼ限られた数校での争いとなっている。

2 台湾の大学の状況

2-1 国公立、私立の配分と地域別特色

台湾には（総合、専科）「大学」と（専科）「学院」の高等教育機関があるが、宗教系を除いた校数は146校ある。1-1と同様台湾の教育統計処が公表するデータを元に、市県ごとの校数等をまとめたのが以下の一覧表である。小中高では地域ごとにまんべんなく学校が配置されているが、大

学に関しては、北部の数（65校）と、中南部を合わせた数（66校）がほぼ同数で、台北とその周辺（新北）に全国の1/3の大学が集中している（45校）状況がよくわかる。学生たちも統一試験の結果を受けて地元を離れるチャンスがあり、自ずと台北に一極集中する傾向は以前と比べても顕著になっているようである^{注80}

	学校数	大学(及び学院※)	計	内、教育/芸術系大
北	新北市	21 (内私立 18)	65 (46)	
	基隆市	3 (" 2)		／崇右影芸科技大 (私)
	台北市	24 (" 12)		台湾師範大 台北教育大／ 台北芸大、台湾芸大、台湾戯曲学院
	桃園市	11 (" 9)		
	新竹県	6 (" 5)		
	新竹市	0		
中	苗栗県	2 (" 1)	35 (23)	
	台中市	17 (" 12)		台中教育大
	彰化県	5 (" 4)		彰化師範大
	南投県	2 (" 1)		
	雲林県	3 (" 1)		
	嘉義県	4 (" 3)		
	嘉義市	2 (" 1)		
東	宜蘭県	3 (" 2)	9 (6)	
	花蓮県	5 (" 4)		
	台東県	1 (" 0)		
南	台南市	13 (" 10)	31 (20)	／台南芸大
	高雄市	13 (" 8)		高雄師範大
	屏東県	4 (" 2)		
	澎湖県	1 (" 0)		
他	金門県	1 (" 0)	1 (0)	
	連江県	0		
計		141 (" 95)		

表4 地域別大学設置校数（2018年） ※宗教系を除く

2-2 「布袋戲」研究機関としての大学

「布袋戲」を教育・研究課題として取り組んでいる大学は多く存在する。正確に情報を整理したわけではないものの、台湾の大学で「布袋戲」を他の戯曲、戯劇、表演芸術等から独立して扱うようになったのは、ここ三十年程のことではないかと思われる。研究面に関しては国立大学が中心であり、かつ「布袋戲」の中でも「傳統布袋戲」に重きが置かれているという印象を持っている。

国立大学に関しては、総合大学においては文学系の学部（台湾文学）等、専科大学・学院においては教育系や芸術系のコース（戯曲、伝統音楽）等に、「布袋戲」をカリキュラムとして組み込んでいる例がいくつも見られる。当然のことながら大学でそれを可能にするためには、「布袋戲」を専門に研究する研究者とそれを学ぼうとする学生の存在が不可欠であり、修士（碩士）論文レベル以上の成果を外部に公開している大学などは「布袋戲」研究機関として一定の条件をクリアしていると言ってよいだろう。

たとえば「布袋戲」研究の第一人者である石光生氏は、1993年に赴任した中正大学（外文系／嘉義）を皮切りに、成功大学（芸術研究所／兼任／台南）高雄師範大学（英語系／兼任／高雄）を経て、中山大学（劇場芸術系／高雄）高雄科技大学（応用外語系／高雄）に転任し、全て国立大学でキャリアを積み重ねた後、2006年より台湾芸術大学（戯劇学系／新北）専任教授に就いて今に至っている^{註90}。

「布袋戲」の研究者を有し、「布袋戲」をカリキュラムに取り入れる大学は、石氏の前任校の成功大、中山大等の他、彰化師範大、東華大、台北商業大、高雄師範大などが挙げられるが、石氏というパイオニアがそれぞれの大学において残した実績が、その退任後も各大学における「布袋戲」研究の礎となり、「布袋戲」研究の輪を広げているようだ。

研究組織としての大学と実際の劇団との結びつきを考える上では台北芸術大に注目したい。台北芸術大は、1982年設立の国立芸術学院を前身とする比較的新しい大学（2001年改称）だが、音楽、美術、演劇、舞踊、

文化資源の五学院を有し、設立当初より伝統芸術を重んじてきた。北部「亦宛然」系統である「山宛然」を率いる黃武山氏は2003年に同大の劇場芸術研究所（演劇学院、碩士）を修了しているが、「布袋戲」劇団で主演を務める演じ手で大学院まで進んだのは、当時かなり珍しいことだったと思われる。現在活動している劇団では「亦宛然」から離脱した「台北木偶劇團」の複数名が同大学出身者であるのが目を引く。主演の吳聲杰氏や行政担当の謝彤妍氏は同大音楽学系（伝統音楽を専攻）の卒業生であり、団長林永志氏や謝琮崎氏といった劇団設立時からのメンバーも現在同大で指導に当たっているほか（林永志が「大學駐校藝術家」、謝琮崎が「傳統音樂學系兼任講師」の肩書きを持つ）、現役の学生も「藝生」（研修生）として団に受け入れるなど、同大との結びつきを強くしているのがよくわかる。

「傳統布袋戲」の後場音楽（楽器による生演奏）に関しては、南管、北管など伝統音楽の系統に位置づけられるため、演奏者は「布袋戲」に専念することなく演奏活動等を行っているケースが多い。したがって、人形を操る前場の演員は団に所属するものの、後場の演奏者は複数の「布袋戲」団を掛け持ちするパートタイマーであることが案外普通のことなのである。もちろん人形の操演に修行が必要なのと同じく、伝統音楽の演奏者を育てるのにも大変な手間がかかるため、「台北木偶劇團」がその一つの解決策を大学に求めたのはよいアイデアだったかもしれない。

さらに、「真快樂掌中劇團」の柯世宏氏（「行政總監・木偶演師」）は、アメリカのコネチカット州立大学（人形劇分野）と台湾芸術大学（応用媒体芸術研究所）で修士号を取っており、台南大學（戲劇創作与応用学系）（2008～）と台湾戯曲学院（京劇学系）（2011）で兼任講師を務めているというような例もある。前述の黃武山氏は李天祿名人の二子、陳錫煌・李傳燦から指導を受けたことをきっかけにこの世界に進んだ「孫」の世代（第三世代）の演者であるが、この柯世宏氏も「亦宛然」と同じく北部で「傳統布袋戲」の技を伝承する「真快樂」の江賜美女史（86才）の孫に当たり、現在はスタッフとしても演者としても団を引っ張るべき存在になって

いる。

「亦宛然」の第三代にあたる李俊寛氏も、自身は演じる道を選ばなかったものの、団の運営の中心となり、教育者としていくつかの大学で布袋戲を教える経験を積みあげている。特に真理大学（私立）は「亦宛然」の拠点（新北市三芝）と比較的近いこともあり、大学で講座を開くだけでなく、三芝の李天祿文物館まで学生を研修に招くなどの交流を重ねているが、その中心となっているのが彼である。40代を迎えるこの年代にとっては、大学教育で学んだことを現場へとフィードバックすることがある意味当たり前のことになってきているようだ。

それ以外に、大学で講座を持つわけではないが、企画イベント等で「布袋戲」の普及に取り組んでいる大学も多い。

近いところでは、中部の嘉義大学（人文芸術中心）が2018年11月に「台北木偶劇團」を招いて公演（《茶山風雲》）を行ったり^{注10}、東部の台東大学（華語文學系）が2017年5月に「蕭添鎮民俗布袋戲團」を招いて公演（掌中舞三國《華容道》）を行ったような例^{注11}、北部の政治大学においても2016年11月に文学院と外語学院が共同で同団を招いて「野台布袋戲演出」を行った例などがあり^{注12}、様々な地域で大学が主催団体となって公演を行う例は少なくない。

ユニークな例として、2015年に「台湾聯合大學系統」^{注13}の4大学（中央、交通、清華、陽明大）が共同で企画した「藝文活動—布袋戲工作坊暨演出實習」などは、大学の垣根を越えた取り組みとして注目できる。本企画は、「亦宛然」門下のフランス人演者班任旅（Jean-Luc Penso）氏を招いての実技指導と、展覧会「班戲—李天祿與班任旅的台法奇遇」を各大学で巡回開催するといった内容であったが、こうした動きは今後増えていくかもしれない。

台湾中部の「布袋戲」の中心である雲林では、虎尾科技大学が、その地域性を利用した活動に取り組んでいる^{注14}。2018年には、毎年同地で開催される「雲林國際偶戲節」のプログラムの一つ「偶戲研討会」に大学とし

て参加したほか、雲林布袋戲館で小学生向けに「科普活動－來看布袋戲 體驗線能趣（布袋戲を見てクリーンエネルギーを体験しよう!）」と銘打った催しを行っている。「緑能（綠色能源）」つまり自然エネルギーを子どもたちに学ばせるための手段として「布袋戲」を使うという科技大学ならではの特色ある活動ではあるが、大学の取り組みとしては非常におもしろい。

最後の例は大学の「紙老虎劇團」というサークルが関わっており、大学の「布袋戲」の活動においては、学生たちのクラブ、サークル抜きに考えるのは難しい。次節では、大学内の「布袋戲」クラブ（社団）について考えてみたい。

2-3 大学内サークル活動の広がり

高校大学等には多くの「布袋戲」クラブが存在するが、それらが誕生するきっかけとなったのは2000年に公開された映画『聖石傳説』と考えられる。『聖石傳説』は、テレビの世界で成功を収めていた黃海岱名人の孫、黃強華・黃文擇兄弟が初めて制作した「霹靂」ものの「布袋戲」映画で、若者たちに熱狂的に支持された。ほとんどの学校の「布袋戲」クラブが「霹靂」系をベースにしているのはそれが原因であると考えられる。北部は本来「傳統布袋戲」が強いエリアであるのだが、映画に熱中した若者たちが向かったのは「霹靂布袋戲」だったのである。^{注15}

次に挙げるのは、「E-PiliClub/霹靂社群中心」という「霹靂」もののファンクラブに登録する、学校のクラブ・サークル（社団）一覧である。98社団が登録すると説明があるが、現在は欠番があり、実際に名前が公開されているのは65である。以下の表は同サイトに掲載される名簿を元に筆者が整理したものである。^{注16}

	会員 no	地域	校名	国公私	社団名称
北	N001	台北市	台湾大学	国	国立台湾大学布袋戲研習社
	N002	台北市	台湾師範大学	国	台湾師範大学布袋戲研習社

渡邊幸彦

	N003	台北市	東吳大学	私	東吳溪城掌中乾坤布袋戲社
	N004	台北市	中国文化大学	私	中国文化大学華岡布袋戲社
	N005	台北市	銘伝大学	私	銘伝大学布袋戲研究社
	N008	台北市	市立第一女子高中	公	布袋戲研習社
	N010	桃園縣	武陵高級中学	公	掌中乾坤霹靂布袋戲研習社
	N016	台北縣	徐匯中学	公	布袋戲研究社
	N017	新竹市	交通大学	国	布袋戲研習社
	N018	台北市	台湾師範大学附属高中	国	布袋戲社
	N021	台北市	世新大学	私	布袋戲研習社
	N022	台北縣	輔仁大学	私	布袋戲研習社
	N023	新竹市	玄奘大学	私	玄奘春秋布袋戲研習社
	N024	桃園縣	光啟高級中学	私	布袋戲社
	N025	台北市	中国科技大学	国	掌中乾坤社
	N026	桃園縣	南亞技術学院 2016~ (元 桃園創新技術学院)	私	(桃園創新技術学院) 布袋戲研習社 2015/12/03 まで記録あり
	N027	台北市	政治大学	国	布袋戲研習社
	N029	基隆市	台湾海洋大学	国	海大布研社
	N030	桃園縣	中央大学	国	布袋戲研習社
	N031	台北市	大同大学	国	布袋戲研習社
中	M001	台中市	台中第一高級中学	国	布袋戲研習社
	M005	台中市	大里高中	国	布袋戲研究社
	M006	台中市	逢甲大学	私	布袋戲研習社
	M008	雲林縣	虎尾科技大学	公	掌中技芸社
	M009	雲林縣	正心中学	公	布袋戲研究社
	M011	南投縣	暨南國際大学	国	布袋戲研究社
	M013	台中市	台中護專	公	中護朔月動漫社布研組
	M014	彰化縣	彰化師範大学	国	彰化師範大学布袋戲研究社
	M015	台中市	大明高中	公	大明布袋戲社
	M017	彰化縣	彰化高中	公	掌中文化研究社
	M019	台中市	嶺東科技大学	私	布袋戲研習社
	M021	彰化縣	明道大学	私	布袋戲社
	M024	台中市	中興大学	国	布袋戲社
	M025	雲林縣	斗六高級中学	国	布袋戲研究社
	M029	嘉義縣	南華大学	私	布袋戲研究社
	M030	台中市	東海大学	私	布袋戲研究社

台湾布袋戲と学校教育 2018

	M031	台中市	弘光科技大学	私	布袋戲研習社
	M032	台中市	僑光科技大学	私	布袋戲研究社
	M033	雲林県	雲林科技大学	国	掌中戲劇研習社
	M034	台中市	台中女子高級中学	公	布袋戲研究社
	M035	台中市	文華高級中学	国	紫樓布袋戲研習社
	M036	台中市	台中教育大学	国	布袋戲社
	M037	台中市	中台科技大学	私	布袋戲研究社
	M038	台中市	中山医学大学	私	布袋戲社
南	S004	高雄市	高雄中学	公	布袋戲研究社
	S006	屏東県	屏東女子高級中学	国	布袋戲研習社
	S010	高雄市	市立高雄女子高中	公	布袋戲研究社
	S011	高雄市	高雄大学	国	布袋戲研習社
	S012	高雄市	義守大学	私	布袋戲研習社
	S014	高雄市	高雄市立小港高級中学	公	布袋戲研習社
	S018	台南市	南榮技術学院	私	掌中戲劇社
	S020	台南市	南台科技大学	私	布袋戲研習社
	S021	高雄市	鳳山高級中学	国	布袋戲研究社
	S022	台南市	台南女子高級中学	国	布袋戲研究社
	S023	屏東県	屏東教育大学	国	布袋戲研習社
	S024	台南県	遠東科技大学	私	布袋戲研習社
	S025	台南県	台南応用科技大学	私	布袋戲研究社
	S026	屏東県	屏東高中	公	独布天下布袋戲研習社
	S027	台南市	育徳工家	公	布袋戲研習社
	S028	高雄市	正修科技大学	私	布袋戲研習社
	S029	台南市	崑山科技大学	国	崑山科技大学布袋戲研究社
	S030	高雄市	立志中学	私	布研社
	S031	高雄市	高雄医学大学	私	布袋戲研習社
	S032	台南市	成功大学	国	布袋戲研究社

表5 学校内サークル活動一覧

65 社団のうち大学は 41 であるが、北 15 / 中 15 / 南 11 と、ほぼ均等であることがわかる。(ここには登録されていないが、東部地区宜蘭にも国立宜蘭大学「偶蘭天成布袋戲研習社」というクラブがあり、現在も活発に活動している。)

ここに名前が挙がっている社团の中でも、特に目立った活動をしているのは台湾師範大学「師大布袋戲研習社」であろう。他の多くの社团と同様2000年に活動を開始した本クラブは、自分たちの表演活動は基本的に「霹靂」系をベースにしているが、2013年からは独自で文化講座を開設し、《偶遇大師》系列講座の名で、年度ごとに「傳統」から「金光」、「霹靂」までバランスの取れた内容を配置し、現在まで継続して実施されている。これは、学生のクラブ活動の域を越えた社会的な活動とってよいだろう。^{注17}

さて、これら大学の社团一覧を見て特徴的なのは、41大学の内、北7/中7/南7と計21大学が私立大学であるという点である。大学クラブの分布としては国立と私立が半々ということになる。

筆者は2018年3月に台中の逢甲大学「布袋戲研習社」を訪問したが、本クラブは最も活発に活動している団体の一つであることが認められた。今後、北部の中国文化大や銘伝大、中部の中興大や東海大、南部の義守大など地域で特色のある私立大学の活動は特に注目して取材していきたい。

終わりに 今後の調査方針

すでにいくつかの学校での調査や、継続して追いかけている取り組みなどもあるが、今後は、今回の予備調査に基づいて、さらに具体的に現地での実態調査に進んで行く予定である。こうした調査が将来的には「布袋戲」の人材育成の一助となることを願ってのことである。

注

- 1 『西遊記』『三国演義』『白蛇伝』布袋戲演目小考（『同朋文化』第十三号、2018/3発行）「1 近三年の布袋戲団体の活動状況」（p. 1～p. 7）
- 2 「台湾布袋戲と学校教育」（『同朋文化』第九号、2014/3発行）「1 布袋戲と学校との関わり」（p. 30～32）
- 3 教育部統計処サイト <https://depart.moe.edu.tw/ed4500/>（「教育統計查詢網/」）

から検索したデータを整理した。

- 4 ちなみに日本の学校は（文部科学統計要覧 2017 年度による）、小学校が 20,095（内、国立 70、公立 19,794、私立 231）中学校が 10,325 校（内、国立 71、公立 9,479、私立 775）、高校が 4,907 校（内国立 15、公立 3,571、私立 1,321）、大学が 780（内、国立 86、公立 90、私立 604）である。台湾においては、例えば、106 年度の台北の就学児童数 115,679 人に対して 151 校であるのに比し、台南は 87,329 人に対して 211 校となっており、児童数割りになっているわけではない。
- 5 「台湾布袋戲と学校教育」（同上）「2-2-3 全國學生創意偶戲比賽」（p 40～45）
- 6 「全國學生創意戲劇比賽」サイト <http://web.arted.gov.tw/drama/> に公開されている「94 至 106 學年度全國學生創意戲劇比賽決賽團隊統計表」を改変整理した。
- 7 「全國學生創意戲劇比賽」のサイト（同上）に公開されている年度別参加団体データを元に筆者が整理したものである。
- 8 教育部統計処サイト（同上「教育統計查詢網/」）から検索したデータを整理した。
- 9 自身は私立の東海大学（外文系）の出身であるが、文化大学芸術研究所で修士（碩士）、アメリカのカリフォルニア大 LA 分校で博士号を取得し、戯劇分野の専門家としてキャリアをスタートさせた。
- 10 嘉義大学 HP より。
- 11 台東大学 HP より。
- 12 政治大学 HP より。
- 13 台湾では 2003 年に「台湾聯合大學系統」が成立してから、次々と大学のグループ化が進められている。台北を中心とした台北科技、台北、台北医学、台湾海洋 4 大学の「台北聯合大學系統」（2011～）や台湾・台湾科技・台湾師範 3 大学の「國立台湾大学系統」（2015～）、地方を拠点とする台湾・雲林科技、虎尾科技 3 大学の「國立雲林大學聯盟」（2017～）、台湾全土にまたがる成功・中興・中山・中正 4 大学の「台湾綜合大學系統」（2012～）など、十近いグループが誕生している。

渡 邊 幸 彦

- 14 虎尾科技大学 HP より。「來看布袋戲 體驗綠能趣」活動は、2018年4月13日（金）、小学4～6年生を対象にして「雲林布袋戲館」で開催された。
- 15 2004年には、『聖石傳説』の影響を受けて、台北の「建中」「北一女」「華江」「徐匯」など高校の「布袋戲」社団が集まって「北少流（The Northern Puppetry Youngsters）」という大型の学生組織が生まれ、現在もその活動を継続させている。2015年に霹靂映画の新作『奇人密碼』が公開されると、自分たちでも映画作りに乗り出し、会の十周年記念作品として『逆天. The Decade』という90分の長編「布袋戲」映画を完成させるに至った。本作は、台北芸術大学・廣播電視学系（碩士班）応用媒体芸術組の卒業制作でもあり、高校時代に「霹靂布袋戲」に魅せられた学生たちが、大学院まで進んでプロに匹敵するレベルの作品を作り上げたのは注目に値する。
- 16 「霹靂網－EPILI NETWORKS－」サイト「社団名單」を参照した。
<https://club.pili.com.tw/school/clublist.php>
- 17 2014には《石信一老師兵器道具講座》、《三弦老師編劇講座》、《林奎協老師の電視布袋戲講座》、《黃武山老師傳統偶講座》、2015には《金光編劇講座—三弦老師》、《霹靂造型講座—郭俊岳弦老師》、2016には《蕭志偉老師口白講座》、《黃武山老師傳統偶講座》、《宋家欽老師造型講座》、《林奎協老師電視布袋戲講座》、2017には《蘇俊穎木偶劇團 × 野台戲講座》、《江湖救援團 × 電視布袋戲講座》、2018には【師大偶遇大師】布袋戲文化系列講座之電視布袋戲講座（江湖救援團編導 林子揚）が開かれている。